

成岡: この建物は素晴らしいですね。いつここに移転されました？

山本: 2007年の12月に竣工しました。2008年の2月に城陽市の旧本社から移転し、本格的に稼働しました。

成岡: 随分自立つ外觀ですね。

山本: そうですね。皆さんそう言われます。我々は知的労働をしているという自負がありますので、今までの製造業のイメージを一新したいと思ってこういう外觀、内部構造にしました。



非常に目を引く外觀

成岡: 確かに、この設計にはそのような思想が表現されていますね。製造業のイメージではないですか。

山本: 特に、自慢は2階のデザイン部門と4階の食堂です。2階のデザイン室は当社の知的生産技術が集約されたオペレーションルームです。ここで当社が自慢する最高水準の知的生産がデザインされます。4階の食堂は食堂というよりレストランで、ここで社員が結婚パーティをしたこともあります。眺めも素晴らしいが、何かのアイデアが生まれてきそうな感じがします。



素敵な食堂

成岡: 貴社の本業はアルミ金属加工業ですね。

山本: 本業はそうですが、普通の金属加工業とは違います。当社の製造現場は、普段は夜間に無人で稼働しています。日中に設計のプランニングをして、三次元データ処理を行い、そのデータを入力して5軸加工マシンが稼働するのは、夜間無人です。マシンングデータ設計業のほうがびつたり来ます。

成岡: ここに行き着くまでのご苦労は並大抵ではなかったのでしょうか。

山本: もともと、量産自動車部品の製造業でしたが、とにかく単調な作業の繰り返しでした。こういう作業は人間のやるものではないと、すぐに思いましたが当時の製造業というのは習うより慣れる方式で、とにかく経験が重視されました。

成岡: それで嫌気がさしたと。

山本: 量産ラインは返上しました。単調な作業は機械がするべきで、人間はもっと知的な労働に従事するべきというのが、私の持論です。自分の会社では、絶対に知的労働に集中するように変えようと思いましたが、受注が一時的に激減しましたが、信じることを貫きました。

成岡: しかし、なかなかすんなりとは行かなかった。

山本: ベテランの職人さんほど自分の技術や経験を大事にします。また、それをオープンにしません。自分だけの職人の世界に閉じこもります。そこに穴を開けるのは、正直大変でしたし、時間もかかりました。なかなか納得してもらえませんでしたね。

成岡: しかし、必ず将来はそうなる



お話しをつらがついた山本副社長

んだという確信があった。

山本: 若いときから機青連(京都機械金属青年連絡会)、京都試作ネットというグループで、同じような仲間と切磋琢磨してましたから、考えの軸は揺るぎませんでしたね。現場でトラブルが起きてても、困難な局面があっても、必ずこれは通らないといけない道だと確信していました。

成岡: 京都試作ネットは試作品のWEBサイトですね。

山本: そうです。今では世間から大きな認知をいただいて、非常に活況を呈しています。試作品ですから、量産ではなく一品ものばかりで、納期が非常にタイトで技術的にも難しいものが多いです。当社はアルミ金属材料の加工に特化しています。このベースになっているのが京都試作ネットでの貴重な経験です。

成岡: ある意味でニッチな狭い市場かとは思いますが、量産の製品はないのでしょうか？

山本: 当社は基本的に量産ものはありません。ほとんどが、1個か2個の生産です。それが80%です。いくら多くても数十個ありません。100個以上の量産というのは、ほとんど記憶がありません。まさに、ロングテール型の生産です。

成岡: 数量が少ないとコストが高くなります。

山本: それを誰でもできるような知的生産性を極限にまで追及したシステムで、設計プログラムを組んで、昼間の在社時間で知的労働に集中し、マシンが夜間に作業をしてくれるように設計します。

成岡: 夜間無人でもトラブルはありませんか？

山本: 当初はマシンに与えたデータがおかしくて、朝に出動してみたらマシンが壊れていたというトラブルもありました。現在では、まず三次元で設計データをシミュレーションして、画面上で確認し、その作業の工程を最初から最後まで画面上で確認することで、品質、納期、コストなどすべてに満足できる製品が仕上がりました。このシステムを当社では「HILL TOP システム」と呼んでいます。小さな丘(アルミ加工)でもトップ(頂上)に立つんだという意味です。

成岡:素晴らしいですね。他の同業者が真似しませんか？

山本: 当社は常に最先端を走っているという自負があります。他社が追いついて来てても、常にリードを保てる自信があります。2002年度に京都府中小企業優秀技術賞、2003年と2006年に関西IT百選の最優秀企業賞をいただくことができました。

成岡: よく分かりました。一度、この食堂でランチを食べさせてください。

山本: いつでもお気軽にお越しください。大歓迎ですよ。

成岡: 今後を楽しみにしております。本日はどうもありがとうございます。



2階デザインルーム

## ● データ ●

山本精工株式会社  
所在地: 〒611-0033 京都府宇治市大久保町成手1-30  
代表取締役社長 山本正範 / 代表取締役副社長 山本昌作  
TEL: 0774-41-2933  
FAX: 0774-41-2926  
E-mail: hilltop@hilltop21.co.jp  
URL: http://www.hilltop21.co.jp